

コミュニティガーデンのすすめ

西武・狭山丘陵パートナーズ
西武・武蔵野パートナーズ
西武・多摩部の公園パートナーズ

磯脇 桃子（特定非営利活動法人 NPO birth 所属）
矢口 直生（特定非営利活動法人 NPO birth 所属）

I. はじめに

「コミュニティガーデン」とは、一言でいうと地域の庭である。まちに花とみどり、人々の笑顔をもたらしてくれる。そして、地域交流の場や都市緑化の向上、環境教育の場など様々な効果が期待できる。私たちは、平成 18 年に指定管理を開始した狭山丘陵グループにはじまり、都立公園におけるコミュニティガーデンの普及に取り組んできた。今回は、東京都西部にある 3 グループの都立公園（狭山丘陵グループ※ 1、武蔵野の公園グループ※ 2、多摩部の公園グループ※ 3）で行っている「コミュニティガーデン」の取組について報告する。

II. コミュニティガーデンのイロハ

「コミュニティガーデン」は、まちかどの花壇や公園、マンションの中庭など、場所も、大きさや形も多様である。共通しているのは「みんなでつくり、みんなで楽しむ街なかの花壇」であること。仲間と一緒に愛着をもって手入れをし、つくる人や見て楽しむ人の笑顔があれば、そこはコミュニティガーデンとなる。

コミュニティガーデンは、1970 年代に米国フィラデルフィア、サンフランシスコ、ニューヨークを中心に始まったとされている。ニューヨークにおけるコミュニティガーデン活動は、一人の女性の働きかけが地域を蘇らせる運動への発展していった。当時、不景気からまち全体が荒廃し、空き地は不法投棄のゴミであふれ、犯罪の温床になっていました。それを見かねたリズ・クリスティーという女性が立ち上がり、周囲に働きかけ、ゴミを取り除き、木や花を植えて、空き地を公園のような空間に再生したのが始まりだといわれている。

このようにコミュニティガーデンは、地域課題の解決手段として始まった。現代社会には、都市環境の悪化や地域の人々のつながりが希薄になっているなど、さまざまな課題が山積している。コミュニティガーデンは、こうした社会課題を解決できる手法として社会の注目を浴びている。



写真-1 ニューヨークのコミュニティガーデン(Creative Little Garden)

ではコミュニティガーデンづくりは、どのように進めていけば良いのか。これからコミュニティガーデンづくりを進めるための4つのステップ「みんなで考える」「みんなで作る」「みんなが楽しめる」「コミュニティガーデンからはじまるまちづくり」を紹介する。

1. 「みんなで考える」

コミュニティガーデンづくりのスタートは、仲間を集め、想いを出し合うことから始まる。そして、対象となるガーデンがどんな場所なのかを確認する。日当たりがどうか？どんな人が訪れるのか？ガーデンの条件を確認・共有することが、このあとのガーデンづくりに非常に大事なポイントとなる。条件を踏まえて、ガーデン全体のコンセプトや方向性が決まったら、季節のテーマカラーや植え付ける植物の種類、株数などを決めるデザインワークを行う。

2. 「みんなで作る」

ガーデンデザインが決まったら、いよいよガーデンワーク。道具や材料の調達などを考え、土づくりや苗の準備を行う。準備が整えば、あとはデザインに沿って苗を植えていく作業。子供からお年寄りまで参加できる楽しい作業になるため、地域の人々が参加できる機会にして活動メンバーを増やすきっかけにできると良い。

3. 「みんなが楽しめる」

コミュニティガーデンは、つくっておしまいではない。花壇のお手入れや植物の利用、ガーデンパーティーの開催など、楽しいガーデンライフも醍醐味のひとつ。花壇の特徴にあわせた植物の活用や環境教育の場としての活用など楽しみ方は様々。

また、花の蜜をもとめてチョウやハチなどの昆虫があつまり、また隠れ家をもとめて鳥や動物もあつまってくる。生物多様性の向上にも一役買っている。ガーデンの手入れを通じて、生き物たちの息づかいに触れるのも大きな喜びとなる。

4. 「コミュニティガーデンからはじまるまちづくり」

仲間との楽しい会話、通りすがりの人とのふれあいなど、コミュニティガーデンづくりは、人との出会いにあふれている。人と人が出会い、生き物たちの住処が生まれ、人と自然がともに生きていける空間づくりができる。コミュニティガーデナーのもう一つの楽しみは、コミュニティガーデンがみどりのまちづくりにつながっていく事である。

都立公園にコミュニティガーデンがあることで、活動を通して花壇づくりに関する知識を得られるだけでなく、市民の健康増進や地域の活性化が期待でき、公園緑地を軸としたまちづくりにつながる。

Ⅲ. 様々なコミュニティガーデンの事例

1. トトロの里に花を添える里山公園のコミュニティガーデン(狭山公園)

都立狭山公園は、アクセスのしやすさなどから「狭山丘陵の玄関口」として位置づけて

いる公園である。東京都の水がめである多摩湖の下にあり、古くからサクラの名所として知られている。近隣には「西武園ゆうえんち」もあり、都民の身近な行楽地として親しまれている。

狭山公園では、指定管理を開始した平成 18 年より 17 年間に渡って「コミュニティガーデン講座※4」を実施し、最もコミュニティガーデンの普及に力を入れてきた公園である。この講座は、年間を通してコミュニティガーデンづくりの手法が学べる講座であり、講座を通して都立公園や地域で活動するコミュニティガーデナーを育てることを目的としている。

(※途中で「コミュニティガーデナー養成講座」より名称変更)

写真-2 コミュニティガーデナー養成講座 チラシ



写真-3 コミュニティガーデナー養成講座の様子

講座の実習地として利用している花壇は、講座開始時に再整備し、17 年間講座の参加者やボランティア等、関係する皆さんと育ててきた重要なコミュニティガーデンとなっている。狭山公園の正門に位置しているため、公園の印象を華やかにし、四季折々の花で来園者を楽しませている。



写真-4 17年前の花壇(狭山公園)



写真-5 コミュニティガーデンとして生まれ変わった花壇(狭山公園)

また、長年の講座開催で培ったノウハウをまとめた「コミュニティガーデン講座テキスト」は、参加者から非常に好評を得ている。

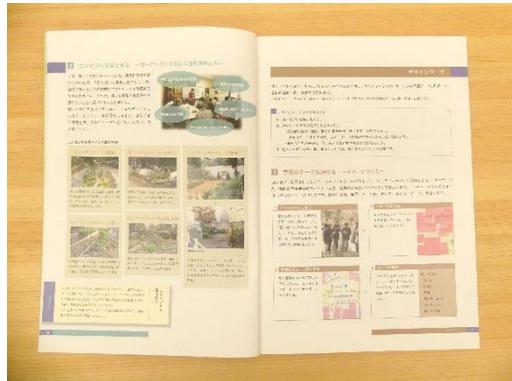


写真-6 コミュニティガーデン講座テキスト

コミュニティガーデン講座は、コロナ禍で縮小を余儀なくされたものの、現在も継続的に実施している。17年間、継続して講座を実施することで、これまでに500名近いガーデナーを輩出。狭山公園が、コミュニティガーデンの素晴らしさを伝え、みどりのまちづくりで活躍する人を育てる拠点として機能している。

2. 地域社会と共に育む緑道のコミュニティガーデン(狭山・境緑道)

多摩湖から境浄水場までの水道管を布設した道路を緑化したのが、狭山・境緑道である。現在は、西東京市から東大和市までの10.5kmにわたって開園している。緑道沿いには、サツキ、ヤマブキ、アジサイ、サルスベリなど花の咲く樹木が多く、花の季節には彩りも鮮やかに装っている。緑道と並行して自転車・歩行者専用道が通っており、都立小金井公園、狭山公園とあわせて散策やサイクリングを楽しむことができる。狭山・境緑道は、花と緑の回廊として、散歩道や通学路など、地域の人々の癒しの空間として親しまれている。



写真-7 馬の背(狭山・境緑道)

狭山・境緑道では、公園ボランティアである「西東京・狭山境緑道花の会」が中心となって花壇づくりが行われている。「馬の背」と呼ばれる土手の東側にあるガーデンでは、宿根草をベースに植栽されており、年間を通じてメンバーがお手入れをしている。四季を通じて200種近い花々が咲き、緑道を利用する人々の目を楽しませてくれている。



写真-8 狭山境緑道花の会 活動の様子

また、10.5kmという長い距離の沿線には、多くの住宅が隣接している。その地域住民の力を活かすため、平成28年より「緑道ガーデンパートナー制度」を開始。緑道を綺麗にしたいという地域住民や団体と協定を結び、ガーデンパートナーとして、公園ルールの中で、緑道内で花壇活動を行っている。オリジナルのロゴマークや看板を作成し、制度の普及啓発を行っている。登録したガーデンパートナーの口コミなどもあり、現在は、57箇所(個人、グループ含む)にまで増加し広がりを見せている。この制度により、地域住民と顔の見える関係を築くと共に、長い沿線を花で彩り、愛着を持ってもらうことができている。



写真-9 緑道ガーデンパートナーの花壇と看板

3. 多世代間の交流を生み出す総合公園のコミュニティガーデン(陵南公園)

都立陵南公園は、八王子市に位置し、多摩御陵の南、南浅川のほとりにある総合公園である。近隣には戸建て住宅や大型の集合住宅があり、地域住民の憩いの場として親しまれている。

陵南公園では、地域と共に花壇づくりを行うため「ガーデンパークプロジェクト」を実施。「はじめてプラン(ビギナー向け)」「もっとプラン(連続講座)」「みんなでプラン(活動の場づくり)」を設定し、段階的に関われる機会を提供。その結果、ガーデンサポーターの立ち上げに成功し、地域の皆さんと共に花壇づくりが進んでいる。

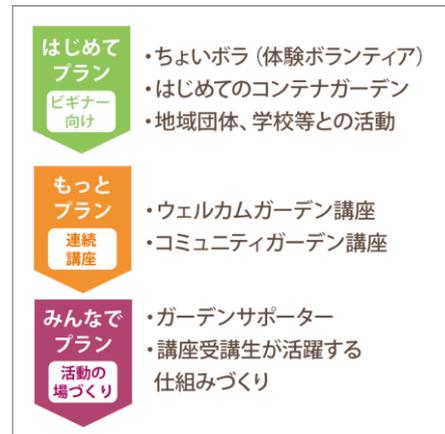


図-1 陵南公園におけるガーデンプロジェクト図

(1) はじめてプラン (ビギナー向け)

はじめてプランでは、誰でも気軽に参加できる「ちょいボラ(体験ボランティア)」や、気軽に始められる「はじめてのコンテナガーデン」、公園の花壇づくり関わるきっかけづくりとなる「地域団体・学校等との活動」などを行っている。公園での花壇づくりに関わる人を増やし、より主体的な活動へとつなげるきっかけづくりとして機能している。



写真-10 ちょいボラのチラシと活動の様子



写真-11 はじめてのコンテナガーデン講座のチラシと活動の様子

(2) もっとプラン (連続講座)

もっとプランでは、はじめてプランで、「もっとやりたい」「もっと知りたい!」と思った方が、知識や技術を身に付けられる講座実施し、学べる機会を提供。コミュニティガーデンの考え方や手法を学ぶことで、公共の場での活動や合意形成の方法などの考え方も身に付けていただく機会となっている。



写真-12 コミュニティガーデン講座のチラシと活動の様子

(3) みんなでプラン（活動の場づくり）

みんなでプランでは、もっとプランで知識や技術を身に着けた方々が実際に活かす場、として活動の場を提供。ガーデンサポーターとして、継続的に公園での花壇づくりに関わっていただく場づくりを行っている。



写真-13 ガーデンサポーター活躍の様子

IV. コミュニティガーデンのすすめ

コミュニティガーデンは、人と人の絆を育みながら、地域を豊かで、居心地の良い空間に変えていく「地域の庭」である。都立公園におけるコミュニティガーデンの取組みは、公園の魅力や価値の向上だけでなく、地域の交流や生物多様性向上、公園を核としたまちづくりにつながる効果がある。ぜひ、皆さまもコミュニティガーデンづくりを推進し、まちに花とみどり、笑顔を広めていただきたい。

※参考(引用)文献

1)特定非営利活動法人 Green Works、特定非営利活動法人 NPO birth (2012):
コミュニティガーデン講座テキスト

※1 狭山丘陵グループ：狭山公園、野山北・六道山公園、八国山緑地、東大和公園、中藤公園の5公園からなる。指定管理者は西武・狭山丘陵パートナーズ。構成団体は、西武造園株式会社、西武緑化管理株式会社、特定非営利活動法人 NPO birth、特定非営利活動法人地域自然情報ネットワーク、一般社団法人防災普及協会。(いずれも令和4年度時点)

※2 武蔵野の公園グループ：武蔵野公園、浅間山公園、野川公園、狭山・境緑道、玉川上水緑道、武蔵国分寺公園、東伏見公園、六仙公園の6公園・2緑道からなる。指定管理者は西武・武蔵野パートナーズ。構成団体は、西武造園株式会社、西武緑化管理株式会社、特定非営利活動法人 NPO birth、ミズノスポーツサービス株式会社、一般社団法人防災普及協会。(いずれも令和4年度時点)

※3 多摩部の公園グループ：陵南公園、小宮公園、滝山公園、大戸緑地の4公園からなる。指定管理者は、西武・多摩部の公園パートナーズ。構成団体は、西武造園株式会社、西武緑化管理株式会社、特定非営利活動法人 NPO birth、一般社団法人防災普及協会。(いずれも令和4年度時点)

※4 コミュニティガーデン講座:途中で「コミュニティガーデナー養成講座」より名称変更。